

令和3年2月4日付・山陰中央新報

ぐっぐぐでも楽しく運動遊び

新型コロナウイルス禍で、家庭で過ごす幼児が増える中、どこでもできる運動遊びを紹介するパンフレットが完成した。県立大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)保育学科2年生6人が卒業研究の一環で作った。幼児が見て分かりやすいよう、実演動画に導くQRコード付き。300部印刷し、松江市内の幼稚園などに配る。(糸賀淳也)



運動遊びのパンフレットを作成した学生たち

県立大短大生が幼児向け冊子

0、1歳児には親子の触れ合いを大切に、一緒に歌って踊る内容や、動物や乗り物になりきって遊ぶ内容を紹介。2歳児には「だるまさんがころんだ」をアレンジした「どうぶつさんがころんだ」などを、ルールを理解して難しい遊びもできるようにする3〜5歳児には「あっちむいてほい」「あんたがたといっせ」などを紹介している。

写真と文章を掲載したほか、QRコードを読み込むと写真共有アプリ・インスタグラムのページに飛び、学生が実演する動画が見られる。持ち運びしやすいようA5サイズで10冊。バステルカラーを基調にした鮮やかなデザインに仕上げた。リーダーの駒井称子さん(20)は「ふとした時に見て遊びの手助けにしてほしい」と話し、副リーダーの古川美保子さん(20)は「コロナ禍で時間や場所が限られ、困っている親も多いと思う。子どもたちが運動遊びを楽しんでいると思ってもらえたらうれしい」と話した。

動画は
こざり



怪談美少年 松江を行く

観光PR 音声ドラマ制作へ

松江市の怪談や伝承に着想を得た美少年キャラクター4人が誕生した。文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）のファンになり、島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）に進んだ女子学生が松江の観光PRに生かそうと考案した。今後、イラスト付きの音声ドラマを制作して市内の名所を紹介する予定で、「八雲の愛した松江をもっと知ってほしい」と意気込む。

（中島諒）

八雲ラブ 女子学生がキャラ考案



鈴木彩女さんが考案した（左から）「翠葛」「黒魅津」「白珠玉」「花観月」

考案したのは、同学部総合化学科1年の鈴木彩女さん（21）。文豪が登場するゲームを通じて八雲に恋い焦がれ、より深く知りたいたと横浜市から進学した。八雲の著作に登場する城山稲荷神社（同市殿町）には江戸初期の1638年、藩主・松平直政の枕元に「稲荷神」を名乗る美少年が現れ、「居場所を建ててくれれば町を火難から守る」と告げたとされる伝承がある。八雲は境内にあるキツネの石像とともに気に入っていた。このほか、月照寺（同市外中原町）には人食いの大亀伝説がある。授業で知った鈴木さんは感銘を受け、「町おこしにつながると2020年11月、観光PRへの活用を思い立ち、「怪談男児御伽草紙」と銘打ち、学友たちと10人で活動を始めた。これら松江の怪談や伝承を基にキツネを擬人化した「白珠玉」をはじめ「黒魅津」「花観月」「翠葛」の計4人をデザインした。

計画では、今月中にプロの声優に依頼して声を吹き込み、イラストと組み合わせた音声ドラマを制作し、3月中旬に動画投稿サイト・ユーチューブでの公開を目指す。ドラマは探偵物を想定。白珠玉と黒魅津が松江を探索しながら松江城、堀川遊覧船といった観光資源をさりげなくアピールする内容に仕立てる。

活動資金は、インターネット上で募るクラウドファンディングで目標を上回る16万5千円を集めており、同大の補助金も活用する。鈴木さんは「県外出身者の印象では松江の知名度はまだ低い。キャラクターを通じて八雲の好きだった松江を広く知ってもらいたい」と話す。

山陰総合 sanin

島根大3.0倍、鳥取大2.9倍 2次試験志願者数確定

山陰両県の国立公立4大学の2次試験志願者数の確定値が17日までに出そろった。島根県立大は志願者数を大きく減らしたが、鳥根大など他の3大学の倍率は...

鳥取大は前期(同709人)に2076人が志願し、倍率は0.1増の2.9倍。後期は203人の募集に1931人が志願し、倍率は0.6増の9.5倍となった。

鳥根県立大の4学部では前期に218人を募集し、657人が志願。倍率は5.5増の3.0倍となった。新設された地域政策学部は72人が志願し2.9倍。後期(同40人)は522人で、倍率は16.3増の13.1倍。

鳥取環境大は前期の環境学部(同70人)は277人が志願し1.0増の4.0倍、経営学部(同65人)に対し404人が志願し1.0増の6.2倍。後期は環境学部(同5人)に86人で4.9増の17.2倍、経営学部(同10人)に187人で4.0増の18.7倍だった。

鳥根大は前後期で募集人員を93人減らし、昨年度より志願者数は605人減少した。同大教育センターの美濃地裕子准教授は「昨年度の志願者増の反動が出てくるかもしれない」と分析した。

(森みずき、福岡県広)

山陰国・公立大学の志願状況 確定

Table with columns: 学部学科, 募集人員, 志願者数, 競争率, 二段倍率, 昨年倍率. Includes data for various departments like 地域創造コース, 総合理工, 看護, etc.

表の見方
1、「学部名」
2、「試験日程の区分」
前-前期日程(試験開始日2月26日)
後-後期日程(3月12日以降)
3、「一段増減」
数字は募集人員に対し、選抜を実施する予定倍率
4、新設学部や統合された学部の前年倍率は「-」
5、表は大学学部等の一般選抜を対象。別日程で独自に試験を実施する大学や学校推薦型選抜などは含まない

木綿街道の商店を紹介するリーフレットを作った学生たち



木綿街道の商店 魅力に迫る冊子

平田、県立大生が制作

県立大人間文化学部地域文化学科（松江市浜乃木7丁目）の2年生5人が、出雲市平田町の木綿街道の商店を紹介するリーフレットを作った。老舗の酒店や醤油店を丹念に取材し、店

舗を研究するうちに「なぜ

そんなに熱心なのか知りたい」と感じ、魅力を伝えるリーフレット作成を企画。2020年11月末から木綿街道振興会と5店舗を取材し、今月上旬に完成した。

リーフレットはA4判、4ページ。20年近く木綿街道でまちづくりに携わる同振興会の平井敦子専務理事が「木綿街道だからこそ体験できるもの」という視点を大切にして取り組んでいることが分かるほか、酒持田本店や来間屋生姜糖本舗の店主の商売にかける思い、観光客との交流を通じて地域を見つめ直した体験談などを丁寧に紹介した。

執筆した清谷太喜さん（20）は「営んでいる人たちの人柄が伝わる内容を心がけた。木綿街道には面白い人たちがいると知ってもらいたい」と話した。

200枚印刷。20日午前10時半から木綿街道交流館で成果報告会を行い、地元住民へ配る。

（糸賀淳也）



来場者と神社について語る藤村光さん(右)
＝松江市東出雲町揖屋、まちの駅女寅

ケーキ味わい神社談議 松江、県立大生が「カフェ」

神社について語り合うイベント「神社カフェ」が20日、松江市東出雲町揖屋のまちの駅女寅であった。島根県立大松江キャンパス(松江市浜乃木7丁目)の神社サークルが企画。近くの揖夜神社をポスターで紹介したほか、同町産の干し柿入りチーズケーキなどを出し、来場者と神社談議に花を咲かせた。

堅苦しくない雰囲気です語り合おうと大学の補助事業を活用し、干し柿を栽培する同町畑地区住民の協力を得て企画。新型コロナウイルス対策のため、事前の予約者を対象にした。ポスターでは揖夜神社の主祭神や2020年秋にあった正遷座祭などを紹介した。かつて、揖屋に住む姫神に会うため、えびす様が美保関から毎晩通っていたが、二ワトリが朝を知らせる時間を間違え、えびす様の怒りを買ったため、揖屋と美保関では卵を食べなくなった、という豆知識も目を引いた。

干し柿入りチーズケーキと「神社」にかけたホットジンジャー(しょうが湯)が出され、来場者は、学生とだんらんした。訪れた同町上意東の農業藤本久江さん(71)は「地元の神社なのに初めて知ることが多かった。ケーキもおいしくて居心地が良かった」と笑った。

サークル創設者の藤村光さん(19)は「地元の神社や産品を知ってもらえたらうれしい。機会があればまた開きたい」と話した。

(吉野仁士)

短大部松江学生がオリジナル曲

県立大発 みんなの詩

うた

令和を生きる人にエール

NHKの長寿番組「みんなのうた」を研究する島根県立大短期大学部（松江市浜乃木7丁目）保育学科の2年生6人が、調査してきた歌と時代との関連を形にしようと、令和に生きる人へエールを送るオリジナルソングを作った。新型コロナウイルス禍で生きる人々を勇気づけるポジティブな内容で、動画サイト・YouTubeで公開している。（※賀澤也）



作詞作曲した「みんなの詩」を練習する学生＝松江市浜乃木7丁目、県立大松江キャンパス

学生たちは1961年に始まった「みんなのうた」で紹介された各曲が時代背景とどう関連しているかを研究している。本年度はコロナ禍で休校期間があったり、子どもと交流する機会が減ったりする中、時代を反映した作品としてみんなが前向きになれる歌を作ろうと企画した。

出来上がった歌の題名は「みんなの詩」。「『苦しい』『悲しい』もみんなだ。歌えば『うれしい』『楽しい』にかわるはずだから」と歌い出し、「心ひとつに歌いあえば、ほらみて、広がるみんなの輪、かわらない気持ち未来へ届け」と歌っている。歌いやすい曲調を意識したほか、歌詞の中に6人の名前の1文字を入れるなど、遊び心も忘れなかった。

作詞した江下実優さん（20）は「歌にはコロナに關係なくみんなを前向きにする力がある」と信じる。作曲を担当した松浦遥さん（20）は「子どもも大人も記憶に残る曲になればうれしい。みんなで『さずさんでほしい』と願いを込めた。

動画はこちら

